令和5年度 兵庫県立姫路別所高等学校　学校評価（まとめ）

令和6年2月13日

教育方針	校訓「友愛、責任、自立」の理念のもと、多様な世の中の変化に対応した学力、豊かな心や共生の心を備え、生涯を通じて自らの未来を切り拓き、粘り強く自己実現に挑戦し続けることのできる人材を育成する。	
重点目標	1　学校行事等を通して、心豊かで活力に満ちた魅力ある校風の樹立を図る。また、あらゆる行事を新型コロナウイルス感染症の流行以前に戻し、保護者・地域住民との交流を通して、開かれた学校づくりを進める。	0.0 D
	2　個々の生徒が主体的な進路を選択し、ワンランク上の自己実現を目指せるよう、校内組織の整備や教育活動等の充実を図る。	2.0 C
	3　全教職員が「わかる授業」を目指し、生徒自ら主体的に学習活動に取組む手段としてICT機器等の活用を行う。また、公開授業や研究授業を実施し、指導力の向上を図る。	2.7 B
	4　生徒理解と相互の信頼関係の構築に基づいた生徒指導を行い、TPOやマナーを意識した行動を取れる生徒の育成を図る。また、部活動を通して、学校生活のさらなる充実を図るために、部活動入部率の向上を目指す。	3.4 A
	5　3年後の校則撤廃を目指し、その環境整備に取り組む。	
	6　姫路特別支援学校との交流及び共同学習を推進し、「共生の心」を育む。	

（評価）

4　よくできた　　A　平均　4．0～3．4

3　できた　　B　平均　3．3～2．7

2　あまりできなかった　　C　平均　2．6～2．0

1　できなかった　　D　平均　1．9以下

（評価）

R2年度平均　3.01

R3年度平均　2.91

R4年度平均　3.29

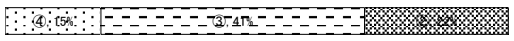
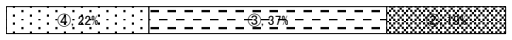
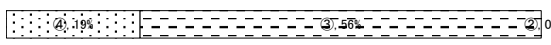
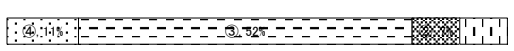
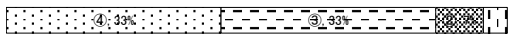
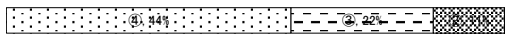
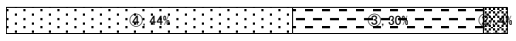
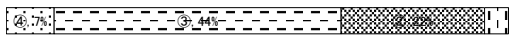
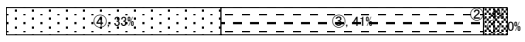
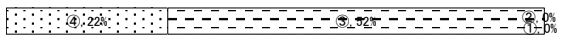
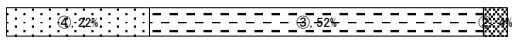
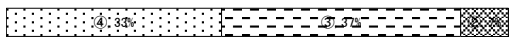
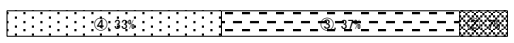
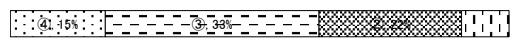
R5年度平均　3.31

＜分析＞
・概ね、教員の評価は令和4年度と同様に高い評価である。特に、「進路意識の向上」は昨年より大幅に評価を上げた。進路指導部より多くの情報提供があり、先生方の意識も変わってきた結果であると考える。また、個別最適な学び、協働的な学びの推進において、ICTを活用した授業を全教員が積極的に取組み、教員も常に学び続ける姿勢を生徒に見せることが出来ていると感じる。
　その中で、課題として①「家庭・地域への情報発信」 ②「PTAとの交通安全指導」 ③「生徒会を中心としたボランティア活動」 ④「防災・安全教育」などが課題として上げられる。①今年度、学校HPをリニューアルしたが一部の教員のみの更新となっているため、年度当初に全職員へ更新の方法などの説明が必要と考える。②PTAの方々には時間がない中で参加していただいている状況なので現状厳しいと考える。③ボランティア活動そのものではなく、自主的な活動に持っていくための仕掛けが必要であると考える。④形式的なものになっているので、地域や消防所等を巻き込んで実践的な訓練が必要であると考える。
　以上、課題については、職員全体で情報共有を図り改善に向けて取り組んで行きたい。

※昨年より評価が高いものは赤字、低いものは青字

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	教員評価 R2年	R3年	R4年	R5年	評価割合　到達度・取り組み内容、　解決に向けての方策	生徒評価	保護者評価
学校運営	（A）開かれた学校づくり	設備等の整備	0	教育実践の場としての適切な設備や備品などが、整備、運営されている。	2.6	3.2	3.4	3.3	④, 36% ③, 48% ②, 0% ①, 0%	2.7	2.8
					C	B	A	B	空気清浄機等の換気設備や保健衛生用品の調達等、多方面にわたる取組を実施。学びのイノベーション推進事業によるICT環境の整備を実施。	B	B
		地域への貢献	1	地域の行事や近隣の施設等に生徒会や部活動の生徒が参加し、地域に貢献し、開かれた学校づくりを推進する。	3.4	1.7	3.6	3.7	④, 52% ③, 42% ②, 6% ①, 0%		2.9
					A	D	A	A	5月にPTCA清掃活動、10月にPTCAグラウンドゴルフ大会を実施。また、姫路市主催のスマイルフェスタや花と緑の緑化運動に参加した。		B
		家庭や地域への情報発信	2	PTA総会や学校ホームページ(通信以外に月複数回更新)、学校通信（月1回）、学年通信を通じて、学校の情報を積極的に発信する。	3.3	3.2	3.6	3.3	④, 52% ③, 48% ①, 0%	3.0	2.9
					B	B	A	B	学年通信1年、2年、3年、図書だより、保健だより等をHP更新した。	B	B
			3	オープンスクール、オープン・ハイスクール、中学校訪問などを通じて地域に開かれた学校づくりを推進する。	3.4	3.4	3.9	3.7	④, 67% ③, 14% ②, 0% ①, 0%		
					A	A	A	A	オープン・ハイスクール、2日間で261名の中学生と110名の保護者が参加した。 体験授業は8講座実施。中学校訪問も年に2回実施できた。		
		学校評議員の活用	4	学校評議員に日頃の本校の活動を見てもらい、日常的に率直な意見を聞き、学校運営に反映させる。	2.8	3.1	3.3	3.4	④, 22% ③, 56% ②, 0% ①, 0%		
					B	B	B	A	7月13日に第1回評議員会を開催し、議事録をもとに職員会議で説明。行事等に参加していただき意見を承る。2/29に第2回評議員会を実施。		

.	評価項目	No	実践目標	R2年	R3年	R4年	R5年	評価割合　到達度・取り組み内容、　解決に向けての方策	生徒評価	保護者評価
（B）生徒指導	生徒指導体制の充実	5	明確な生徒指導基準を設定し、生徒・保護者・教職員間でその共有を図り、指導の徹底を目指す。イエローカード等の活用を図り、学校内でのルール(服装・頭髪)や社会通念上のマナー等を遵守させ、学年進むにつれ指導件数を減少させるよう規範意識を育てる。	2.9	3.1	3.5	3.3	④.41%　③.35%　②.4%　①.0%	3.1	3.0
				B	B	A	B	生徒指導基準を浸透させ、段階指導では「改善シート」を活用。「挨拶日本一、遅刻ゼロの高校に」私たちはなるを目指し、基本的な生活習慣を身に付けさせた。	B	B
		6	保護者にも協力を求め、学校全体で登下校指導を行い、生徒のマナー等の向上を図り、交通安全指導や通学路の安全確保に努める。	3.1	3.3	3.6	3.4	④.52%　③.19%　②.8%　①.0%		3.0
				B	B	A	A	登下校指導での立ち番に、生徒指導部及び専門部、学年にも協力依頼を行い指導を充実させた。PTA、飾磨警察署と協力して通学路ﾏﾅｰｷｬﾝﾍﾟｰﾝを実施。		B
		7	全校集会等で話を聞かせる工夫として画像・ビデオをプロジェクターで投影して生徒の視覚に訴える等、より効果的な指導を展開する。	3.1	3.1	3.6	3.6	④.44%　③.30%　②.0%　①.0%		
				B	B	A	A	学級委員長の指示で体育館へ整列、点呼をとっている。集合指揮は生徒会が中心となって行っている。全校集会の講話の際、プロジェクターを活用し生徒の理解度向上を図った。		
	基本的生活習慣の確立	8	生活のリズムを整えさせ、規則正しく心身ともに健康な生活を送ることができる習慣を養う。特に遅刻指導を徹底し、遅刻数を半減させる。	3.0	2.3	3.2	2.9	④.30%　③.37%　②.33%　①.0%	2.9	2.8
				B	C	B	B	昨年に引き続き、無駄な遅刻の生徒の数の減少に努める。しかし、今年度は昨年より増加した。	B	B
	部活動・自主活動の活性化	9	部活動オリエンテーションを実施し、1年生全員に部活動を体験させ部活動の入部率を上げ、全体の入部率を6割以上にする。ノー部活デーを踏まえ、生徒が自ら考え練習する主体的な取り組みを行わせる。	2.6	2.9	3.3	3.0	④.33%　③.33%　②.33%　①.0%	2.8	2.6
				C	B	B	B	今年度、1年生において部活動入部率が下がった。中学校から部活動への意識が変わり、高校での入部に関しても少なからず影響が出ている。	B	C
	生徒の内面の理解を図る指導の工夫	10	生徒との個人面談を早期に実施し、内面理解を図る。生徒実態調査やi-checkを活用し、各生徒の状況を把握し、必要に応じて生徒・保護者をキャンパスカウンセラーにつなぎ、教育相談を受けさせる。いじめ対応チームを中心に、組織としていじめ認知を積極的に図る。また被害生徒ケア並びに加害生徒への成長支援を充実させる。	3.2	3.1	3.4	3.4	④.30%　③.48%　②.0%　①.0%	3.0	2.9
				B	B	A	A	i-check、生活実態調査（生徒向け）を3回実施、いじめ等の早期発見に努めた。また、担任の面談等に活用した。	B	B
		11	社会人基礎力を培う生徒指導をすすめ、生徒が主体的にスマートフォン・携帯電話やネットの問題を考え改善をすすめるよう指導する。小中学生との連携をすすめる。	3.0	1.9	3.3	3.2	④.33%　③.30%　②.33%　①.0%	3.1	2.9
				B	D	B	B	学校行事でのスマートフォン等の使用を認め、正しく使用することに目的をおいた指導を行った。また、第1学年では情報リテラシーの講演会を実施した。	B	B
（C）進路指導	進路指導体制の充実	12	LHR、総合的な探究（学習）の時間など各学年段階に応じた計画的な進路指導計画を作成し、体系的な進路指導を実施する。指導に際して、進路データ・情報および「進路の手引き」「高校生キャリアノート」を活用し、生徒・保護者に必要な情報を提供する。	2.8	2.7	3.0	3.2	④.22%　③.37%　②.41%　①.0%	3.0	2.9
				B	B	B	B	各学年による進路指導計画を作成、実施。「進路の手引き」「高校生キャリアノート」をLHR、総合的な探究の時間を中心に活用した。	B	B
	進路意識の向上	13	キャリア教育の視点に立って、就業体験（インターンシップ）や企業見学、オープンキャンパスや外部講師を活用した進路別学習会に参加させ、体験を通して進路意識を高める。	3.0	2.7	3.0	3.4	④.19%　③.44%　②.37%　①.0%	3.0	3.0
				B	B	B	A	看護体験や就業体験を実施。就業体験では、6社の受け入れがあり、14名の生徒が参加した。総合的な探究の時間を中心に外部講師活用。進路別学習会・進路ガイダンス・卒業生によるキャリアガイダンスを行った。		
	個別指導の充実	14	進路実現に向けて、補習授業や模擬試験、面接練習などを効果的に実施する。更に、挨拶の仕方、話し方、聞き方などの就労支援（ソーシャルスキルトレーニング）を実施し、社会性を培う。	3.0	3.1	3.0	3.2	④.15%　③.48%　②.37%　①.0%		
				B	B	B	B	全学年で放課後および夏季補習や模擬試験を実施。面接練習も小グループに分け実施。進路実現に向け社会性を培う。	B	B
(D)教職員の資質の向上	指導力の向上	15	カウンセリング研修や救急救命法など外部講師の活用や他校の有効な情報を共有化するなど校内研修の充実を通して、教員の資質向上を図る。	3.1	2.8	3.3	3.4	④.30%　③.41%　②.4%　①.4%		
				B	B	B	A	カウンセリングマインド研修を2回、救急救命法研修を実施		
(D)危機管理体制の整備	実効ある危機管理マニュアルの策定	16	防災マニュアル等を見直し、校内の組織化と役割分担を明確化する。また、病院、警察、自治体、自治会など関係諸機関と連携する。	3.2	3.2	3.4	3.2	④.33%　③.44%　②.0%　①.0%		
				B	B	A	B	緊急対応マニュアルを作成。分教室とも連絡をとり調整。校内組織・役割分担をフローチャートを使用し確認。廊下に設置の緊急電話の使用、放送設備、無線機とメガホンを使い訓練を実施し、より実効あるマニュアル策定に取り組んでいる。		
(D)学校運営全般	学年・学級経営	17	生徒、保護者のニーズを把握し、「夢の実現」に向けて、学年・学級で実践目標を立て、その実現に向けて努力する。取り組み状況を学年通信で伝え、保護者会、三者面談、家庭連絡等家庭との連絡を密にとり、信頼され学校づくりを推進する。	3.1	3.2	3.3	3.5	④.33%　③.37%　②.30%　①.0%	3.1	3.0
				B	B	B	A	各学年家庭連絡を密にとり、全員に三者面談を実施。学年通信47回生「恕」、48回生「Wisdom」、49回生「道」を定期的に発行し、保護者への情報発信を行っている。	B	B
(D)PTCA活動	PTCAとの連携	18	通学マナー指導や地域の環境整備活動、学校行事などへの積極的な参加協力により、教育目標の具体化を図る。	3.3	2.9	3.4	3.6	④.296%　③.48%　②.0%　①.0%		2.5
				B	B	A	A	PTA役員が生徒指導部と連携して通学路マナーアップキャンペーンを実施。5月にPTCA環境整備活動、10月PTCAグラウンドゴルフ大会を実施した。		C

領域	評価の観点	評価項目	No	実践目標	R2年	R3年	R4年	R5年	評価割合　到達度・取り組み内容、　解決に向けての方策	生徒評価	保護者評価
（E）教育課程	自ら学び、自ら考える力の育成	体験的な学習の展開	19	ボランティア実践やふれあい育児体験など、地域の教育資源を生かし、本校の特色を生かした体験的な学習の充実を図る。	3.2	2.4	2.9	3.3		3.1	2.9
					B	C	B	B	看護体験や老人ホームの施設訪問を実施した。また、ボランティア実践では、校外の清掃活動や姫路聾唖協会より講師を招いて特別授業を行った。	B	B
		生涯学習の視点に立った実践能力	20	漢字検定や英語検定、情報処理検定等の資格取得を目指し、生涯を通じて学び続ける意欲と態度を育成する。	3.2	3.3	3.0	3.2			
					B	B	B	B	資格取得に向け個別指導も含め、きめ細かな指導を行った。漢字検定、英語検定、簿記検定、ビジネス文書検定等を実施		
	基礎・基本の定着	わかる授業の展開	21	授業アンケートを行い、生徒にとってわかりやすい授業を行うべく授業改善に努める。生徒が主体的、協働的な学びを実現するためにICTを活用したの法を取り入れ、生徒個々の学力に応じた指導方法を工夫する。	2.8	2.9	3.2	3.1		3.0	2.8
					B	B	B	B	ICT環境を充実させ、各教科の授業でiPadを活用した授業を積極的に行った。また、生徒に振り返りをさせ、教員の指導改善に繋げた。	B	B
	個に応じた学習指導	個に応じた学習指導の徹底	22	定期考査や模擬試験等の結果を分析し、生徒個々の学力を的確に把握し、習熟度別授業、週末課題、指名補習等必要な指導を行うことで学力の定着を図る。	2.8	2.8	2.9	3.2		3.1	2.9
					B	B	B	B	考査および模試の結果をフィードバックしてきめ細かい指導を行っている。英数国を中心に週末課題を課している。	B	B
	総合的な探究の時間	創意工夫を生かした実践の展開	23	“探究”への姿勢がより重要になってくるこれからの教育に先駆け、「総合的な探究の時間」2・3年では、生徒自らが課題設定を行い、ゼミ形式での探究活動を行う形を、今年度より実践する。	2.7	3.0	3.2	3.0		3.0	2.6
					B	B	B	B	自ら課題を発見し、課題解決に向けて調査・研究を実施できるよ段階を踏んで指導した。最終的には、代表者がプレゼンテーションを行った。	B	C
	特別活動	生徒の自主的な活動の活性化	24	学校行事やボランティア活動において、生徒会等が企画、運営にかかわり、生徒の自主・自立の意識を高める。	3.2	2.8	3.4	3.1			
					B	B	A	B	地域各所（北宿・別所公民館・農協・JR駅前・別所交番・たい焼き屋等）に花プランターを2月に設置した。		
（F）課題教育	防災・安全教育	防災・安全教育の充実	25	自然災害や不審者の侵入など不測の事態に適切に対応できるように、行事や共同学習中等様々な条件下で避難訓練を行い、防災・安全教育の充実を図る。	3.3	3.2	3.5	3.2		3.1	2.9
					B	B	A	B	7月・12月の2回、姫路特別支援学校分教室との合同避難訓練を実施。	B	B
	人権教育	人権教育推進体制への取組	26	学年と人権教育委員会が連携し、ホームルームや講演会などを活用して計画的な人権教育を展開し、自他の命を大切にし、自他に対する肯定的な態度を育てるなど、共生社会に向けて、人権に対する理解と意識を高める。	2.8	2.8	2.7	3.3		3.1	3.0
					B	B	B	B	系統的な人権教育の実施に向け、学年と人権教育の内容を検討。コロナ禍における誹謗中傷や差別発言防止につて全校集会やHRで生徒に注意喚起をした。	B	B
	情報教育	情報活用能力の育成	27	情報機器の基本的技術及び情報活用能力を育成し、情報処理検定などの資格取得を目指す。	2.8	3.1	3.4	3.3			
					B	B	A	B	資格取得へ向けた補習を実施。日本情報処理検定協会主催の検定へ移行し、合格者多数。		
	学校の個性化・多様化	特色ある教育課程の編成	28	興味・関心や進路希望等に対応できる教育課程を編成し、学校設定科目や多様な選択科目の内容を検証し、特色化と内容の充実を推進する。	2.8	2.8	3.3	3.4		3.1	3.0
					B	B	B	A	教育課程委員会で新学習指導要領も含めた教育課程の編成、生徒数減及び自己探究類型生徒の科目選択導入に伴う教育課程の見直し、科目の整理、新たな科目の設置を行った。	B	B
			29	自己探究類型の福祉、情報・商業、保育、医療・看護の4分野について、これまでの取組を検証し、内容の充実を図る。	2.9	2.9	3.2	3.1		3.1	3.0
					B	B	B	B	兵庫大教員による特別授業の実施ができた。また、大学訪問や看護系で特別授業を実施した。	B	B
		外部講師の活用	30	インスパイアハイスクール事業、特別非常勤講師等外部講師を活用した授業や部活動指導、講演会などを通して、生徒の多様な興味・関心に応える教育を展開する。薬物乱用防止、DV防止、情報モラル啓発等様々な場面で活用をすすめる。	3.1	3.0	3.3	3.4			
					B	B	B	A	特別非常勤講師の活用（生活と福祉、ボランティア実践、音楽Ⅱ、保育音楽、医療とホスピタリティー、総合）		
		交流及び共同学習の推進	31	交流及び共同学習や体験学習を通じて、共生の心を育み、自己有用感や自尊感情を育成する。	3.2	3.1	3.4	3.5		3.1	3.0
					B	B	A	A	情報総合、ボランティア実践、保健体育等で交流及び共同学習を実施。	B	B
（G）学校運営	勤務の適正化	勤務の適正化	32	勤務の適正化を図り、ワークライフ・バランスを確立するとともに、生徒と向き合う時間を確保する。	2.6	2.9	2.7	3.2			
					C	B	B	B	前期ストレスチェック100%を達成した。また、職員朝礼ではgaroonを活用し、時間の短縮を図った。さらに、勤務時間の適正化においては、3カ月ごとの勤務時間をグラフに示し、各教員へ提供した。		